第11回

日本癌病態治療研究会を主催するにあたって

東京医科大学 外科学第三講座　小柳恭久

この度、第11回日本癌病態治療研究会を開催させていただきます。

本研究会が10年という歳月を越え、常に邁進してきた背景には、先生方のご努力はもちろんですが、本研究会が基礎の先生方と臨床の先生方が、最も身近にまた自由に討論できる会であるからと考えております。

今回、シンポジウムとして「癌病態にもとづく遺伝子治療；基礎および臨床」・「免疫治療に関する最新の知見；基礎および臨床」と題し、遺伝子治療と免疫治療という大きなテーマをとりあげさせていただきました。基礎的研究・臨床的研究を両面から見直し、癌治療に向けて活発な討論がなされることを期待しております。

また、本研究会は発足当初から、癌治療のみならず、癌患者のQOLという面からも検討・討論されてまいりました。そこで今回は、招待講演として、QOLに関する研究のエキスパートであるProf. AA Kaptein (Netherlands)、Prof. CC Gotay (USA) のお二人にお願いしております。

その他、ランチョンセミナーとして、Prof. GJ Peters (Netherlands) にFluorouracil代謝のメカニズムに関する最新の知見を、伊東恭悟先生に癌ワクチン療法に関するご講演をしていただく予定です。また、教育セミナーとして長谷川好規先生に薬理遺伝学関係、段孝先生にはゲノム創薬に関する内容を、イブニングセミナーとして設楽研也先生に抗体療法に関するご講演をお願いしております。まさに癌病態に基づく、たくさんのStrategyをご教示いただけるものと考えております。

本研究会を開催するにあたり、基礎と臨床を結ぶ新しい架け橋として、実り多き会となりますことを祈念し、多数のご参加を心からお待ち申しあげております。